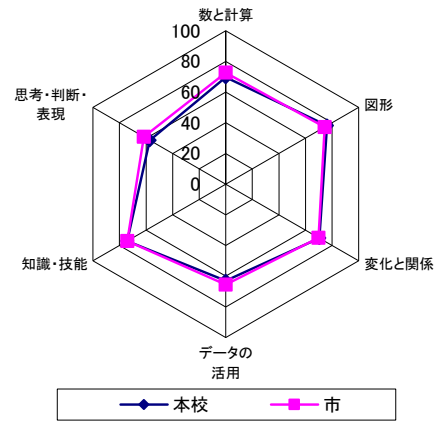


宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.7	72.6	71.6
	図形	76.2	74.4	72.0
	変化と関係	70.5	69.8	62.6
	データの活用	63.0	65.5	59.1
観点別	知識・技能	74.2	74.1	68.9
	思考・判断・表現	57.1	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数÷分数(約分あり)の計算問題では正答率が95.2%で、市の平均を7.8ポイント上回った。 ●図を使って、小数倍の文章問題に合った乗法の式を選ぶ問題では正答率は44.4%で、市の平均を9.5ポイント下回った。 ●2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、正答率が49.2%と低く、課題が見られた。	・乗法の式を選ぶ課題が見られたので、今一度、乗法の意味や使う場面などをしっかりと確認するとともに、文章問題や図を見て何がもとになり、そのもとになる量から他の量を乗法を使ってどのように求めるかを理解できるよう、多くの問題に触れさせて習得を図る。 ・文字を使った式では、必ず一方の文字の値を記入した式をつくり、段階を経て答えを導き出せるようにする。
図形	○台形の面積を求める問題の正答率は84.1%で、市の平均を8.6ポイント上回った。 ○線対称な図形の対称の軸についての問題の正答率は85.7%で、市の平均を7.3ポイント上回った。 ●正八角形の作図方法から、円の中心まわりの角の大きさや正八角形の1つの内角の大きさを求める問題の正答率は38.1%と低く、課題が見られた。	・正多角形の作図の際、三角形の数や内角の和に着目させ、それをもとに様々な角度求めることができるよう、いろいろな正多角形の角度を求める問題に取り組ませ習得を図る。
変化と関係	○道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ問題では正答率が87.3%で、市の平均を2.6ポイント上回った。 ●値に0がある分離量の平均を求める問題では正答率が77.8%で、市の平均を3.2ポイント下回った。 ●単位量当たりの大きさを考察する問題の正答率は71.4%で、市の平均を6.6ポイント下回った。	・平均を求める問題では、0の入った場合と入らなかった場合とを比較させながら問題に取り組ませ、立式を確かなものとしていく。 ・単位量当たりの大きさを考察する問題で課題が見られたので、面積と人数のどちらをどちらで割れば何を求められるのかを「絵や図」を使って考える場を設け、式から何の答えを求めることができるのかを明らかにできるようにするとともに、基準の数字の違った多くの問題に触れさせ、考えを確かなものにできるようにする。
データの活用	○データの見方の問題の中では、集団のデータ平均値を求める問題は正答率が79.4%で、市の平均を0.8ポイント上回った。 ●度数分布表についての理解と最頻値についての理解は82.5%と47.6%で、共に市の平均を4～5ポイント下回った。 ●棒グラフを読み取る問題の正答率は61.9%で、市の平均より8.6ポイント低く、課題が見られた。	・最頻値についての理解を確かなものにするため、その意味や使われ方などに触れ、実際のデータなどを取り上げながら問題に取り組めるようにする。 ・棒グラフを読み取る問題で課題が見られたので、多くの問題に触れさせ、質問に対しグラフのどこに着目し、判断するかを確かなものにしていく。